

# 平成29年度 学校自己評価システムシート ( 県立上尾橋高等学校 )

目指す学校像	地域に根ざし、生徒一人ひとりを伸ばし、自立(律)して社会を支えられる人間を育てる。
--------	---

重点目標	1 基本的な生活習慣を確立し、規律意識を高める。 2 基礎学力の向上を図り、生徒の資質・能力を高める。 3 進路指導の充実により、生徒の自己実現を図る。 4 地域に根ざし、信頼される開かれた学校づくりを進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	15名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己目標					学校関係者評価	
年度目標					実施日 平成30年2月16日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策
1	これまでの継続した指導により生徒の基本的な生活習慣や規律意識・協調性は年々改善傾向にある。しかしながら、一部の生徒においては欠如している生徒もおり、より一層の改善に向け家庭と連携を深めつつ、きめ細かな生徒指導を行う必要がある。	○基本的な生活習慣の確立 ○生徒の自立(律)意識の向上	①毅然とした指導と受容的な指導を使い分け、整容指導、遅刻指導、生活指導を進める。 ②生徒情報を共有し、家庭と学校が連携して効果的な生徒指導を進める。	①欠席・遅刻をする生徒の減少 ②アンケート結果やPTAからの意見での信頼されている評価の割合	遅刻大幅減をはじめ、基本的な生活習慣の確立が進む ①遅刻は昨年度の50.6%まで減少。 ②頭髪・服装などの整容指導の評価は90.4%の保護者が良好と回答(+1.3%)。	①保護者との連携を図り、指導を充実させていく。さらに欠席・遅刻・早退の減少に努める。 ②学校アンケート(保護者)結果から「交通ルール」に関する回答のポイントが下がっているのを、改善に取り組む。
2	授業にまじめに取り組む生徒が多いが、基礎学力が十分でない生徒も多い。また、学習に対する前向きな気持ちを持っていない生徒もいる。基礎学力定着を重視した「わかる」「できる」授業をさらに展開し、成績上位者も伸ばす取り組みが必要である。	○基礎基本を定着させる学習指導と学力の向上、資格取得のための補習授業など、プラスαの教育活動の推進	①チャイム着席・始業の授業を徹底するなど、生徒に日常の授業を大切にさせる姿勢を育てる。 ②1学年において「ブラッシュアップタイム」を実施し、中学校までの内容の学び直しを図る。 ③新たな評価方針に基づいて教科指導を行い、考査前の補習や事後指導を充実させる。 ④年次研修、公開授業、教科会等を活用し、授業改善を進める。 ⑤各種検定試験の資格取得を奨励する。	①授業アンケートでのチャイム着席・始業のプラス評価の割合、及び日常の授業に対する満足度 ②学習意欲に対するプラス評価、授業に対する満足度 ③学期末欠点者の減少、成績優良者の増加 ④授業研修会及び公開授業の回数と内容 ⑤資格内容及び資格取得者の増加数	授業満足度が上昇し、学び直しや補習等が充実した ①チャイム着席は96.9%(+12.3%)、総合的な授業満足度は89.5%(+8.8%)と高評価。 ②授業をきっかけに発展的な勉強をしようとする生徒は全校の79.2%(+15%)、ブラッシュアップタイムが役に立っているという回答する1年生は92.8%(+13.5%)。 ③成績不良者は昨年度より減少(1学期32名減、2学期16名減)。優良者は微減。 ④年次研修者を含め多くの教員による公開授業が17回行われ、ノウハウを共有した。 ⑤検定の実施内容や時期が昨年度と違うので単純比較出来ず。12月までに延べ149の資格を取得(39名減)。簿記1級やワープロ1級の合格者が出た。	①総じて落ち着いた学習環境作りが出来ているが、引き続き日常の授業を大切にさせる姿勢を育てる。 ②ブラッシュアップタイムに加え、主体的に疑問を見つけて自ら解決出来る生徒を育てることに重点を置きたい。 ③引き続き成績優良者の増加に努める。 ④本校の生徒理解や授業の工夫について、情報交換し共有するための研修会を実施する。
3	就職希望者の内定率100%を維持している。これを継続するとともに生徒の多様な進路希望を実現させるために、生徒の進路意識の高揚と自己理解の深化を一層図るとともに、進路実現のために必要な力を身に付けさせる必要がある。	○生徒一人ひとりの希望を叶える進路指導の展開	①進路ガイダンスや進路別見学会、体験活動や適性検査等を通じて、生徒の進路意識の高揚と自己理解の深化を図る。 ②面接指導や合同企業説明会・面接会への参加により、面接試験に向けての実践力を養うとともに進路実現に向けての意識を明確にさせる。 ③一般常識の力を養うための時間の確保に努める。 ④進路指導部と学年団との連携を深め、進路情報・生徒情報を共有し指導にあたる。『進路通信』や進路講演会を通じて、保護者へ進路情報を発信する。	①各種の進路行事や学習に対する満足度 ②面接指導の延べ回数 ③一般常識の力を養うための時間数 ④進路決定者数、及び保護者への進路情報発信数	本校の進路指導は期待に応えていると88%回答 ①本校の進路指導が生徒の進路意識を高めているとの回答が生徒保護者共に86%を超えている。 ②就職支援アドバイザー等外部講師を招いての面接指導50日。その他学年団が随時指導。全部で648回の面接指導を行った。 ③夏休み中の補習の形で15時間実施。その他に授業や総学・LHRでも実施。 ④就職内定率94.9%。推薦やAOでの進学内定率100%。『進路通信』を3回発行して進路情報を発信した。	①外部講師を招いて、計画的に面接指導を行ってはいけるものの、急な就職試験に対しては、担任だけでは時間的に対処しきれない場合もあった。 ②進路指導部と3学年との連携を一層図りながら、担任の面接指導をバックアップしてゆく体制を築きたい。
4	学校通信の回覧や配布、地域との交流により、本校の情報発信はおこなわれているが、今後も保護者と連携して学校行事の充実を図り、開かれた学校づくりを推進する。	○上尾橋の良さのアピール ○開かれた学校づくりの推進	①中学校訪問、ホームページ、進学フェア等を通して本校の良さをアピールし、学校説明会等の参加を呼びかける。 ②体験入学、学校説明会、授業見学会において、実際に頑張っている橋高生を紹介し、本校への理解を浸透させる。 ③時代や生徒の実情に合わせて変化する学校づくりを発信する。	①学校説明会等の参加者数 ②入学希望者の増加数、及び参加者の満足度 ③変わりゆく本校を発信する回数及び方法	次年度開始の類型制を広くアピールした ①各種説明会の参加延べ数は22%減。 ②12/15現在の本校志望数は28.5%減。各種説明会の満足度は86.9%だった。 ③新たな類型制の実施に伴い学校案内を刷新し、チラシを2万2千部発行した。これらを上尾市及び近隣中学校の中3生全員に配付した。	①本校を希望する中学生を増加させるために、特色や魅力のさらなる情報発信に努める。 ②中学校教員等対象授業見学会は好評であった。来年度以降も継続していく。
			①学校通信「橋」や「橋トピックス」を地元自治会や近隣中学校に配布する。 ②ホームページを活用した情報発信を行う。 ③保護者が学校行事に参加する機会を適切に伝える	①学校通信等の発行数及び満足度 ②ホームページの更新回数 ③保護者の学校行事への参加数	様々な形で学校からの情報を発信した ①学校通信「橋」を年間3号、「橋トピックス」をこれまでに13号発行した。保護者の満足度は84.9%(+10.1%)。 ②ホームページを更新した教員は15名。更新回数は175回だった。 ③メールの利用により、学校行事や地域の諸活動への参加数が増加した。文化祭に202名の保護者が来場した。	①ホームページの更新方法を周知させ、形式を整える必要がある。 ②円滑なメール活用が続けられるよう、送受信には今後も最大限の注意を払う。

学校関係者からの意見・要望・評価等	①今年度学校全体で取り組んだ遅刻指導については、高く評価できる。さらに改善して生徒の基本的な生活習慣の確立に期待する。 ②従前から実施している学校アンケートの取組は、数値目標を達成した。今後はメール配信を導入するなど、アンケートの回収率を高めることが課題である。 ③部活動の継続率と体験活動の参加者については、さまざまな働きかけによって、より人数が増えることを期待する。
普通科高校でありながら、特に就職指導などの面倒見がよく、良い結果を出していることは素晴らしい。ぜひ継続してほしい。	①普通科高校でありながら、特に就職指導などの面倒見がよく、良い結果を出していることは素晴らしい。ぜひ継続してほしい。
どろいんきょ祭りへの参加など、地域との交流は素晴らしい。部活動などが地域の発表会などに積極的に参加することが、学校のアピールと地域貢献につながるため、今後の活動に期待したい。	②地元への広報紙の配布等は、学校を知るきっかけとなっている。継続してほしいし、メール配信やHPの改善などにさらに取り組んでほしい。